

Injury Alert (傷害速報)類似事例

前向き抱っこ+自転車転倒で受傷した乳児の重症頭部外傷(No.71 自転車運転中の保護者に背負われた状態から転倒時に放出された乳児の重症頭部外傷の類似事例 1)

事例	基本情報	年齢：1歳 2か月 性別：女児 体重：9.4kg 身長：80.0cm
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		左脳挫傷、左側頭・頭頂骨骨折、急性硬膜下血腫
医療費		入院 2,928,900円 外来 83,090円
原因対象	対象名称	ロードバイク、抱っこ紐
	入手経路使用状況	入手経路は聴取できず不明。主に父が自転車を使用する際に週1程度で使用していた。前向き抱っこ+自転車乗車が道路交通法で認められていないことについての認識はなかった。また、本児用のヘルメットは持っていなかった。
発生状況	発生場所	路上
	周囲の人 周囲の環境	父が本児を抱っこ紐で抱えながらロードバイクで走行していた
	発生年月日	2022年10月X日(月) 午前9時12分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	父親が抱っこ紐で本児を前面に抱えロードバイクを運転していた。舗装道路を時速20km程で走行中、ロードバイクの前カゴに入っていたかばん(A4サイズ布製)の肩下げ紐が前輪に絡まり、ロードバイクごと前方へ一回転して転倒した。ヘルメットの装着はなかった。父親は顔面から着地し、本児は父親と地面の間に挟まれる形で受傷した。ロードバイクの大きな破損はなかった。すぐに通行人が救急要請し、医療機関へ搬送された。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>医療機関到着時、Glasgow coma scale は E2V3M4。左前頭部から頭頂部の擦過傷と、左耳孔からの髄液漏を認めた。意識状態は経時的に悪化し、左瞳孔は散大し対光反射は消失した。気管挿管下に撮影した頭部造影 CT で左側頭・頭頂骨骨折、左脳挫傷、左硬膜下血腫を認めた (図 1)。手術室で ICP センサーを挿入し、集中治療室に入室した。X+3 日の頭部 CT で脳浮腫の増強なく ICP センサーを抜去した。X+5 日に抜管。X+8 日に施行した頭部 MRI 検査では血種の増大なく、骨折部直下の脳挫傷以外に異常所見を認めなかった。徐々に活気良好となり、X+9 日に一般病棟に転棟、X+17 日に退院した。受傷 3 か月後の外来フォローでは頭部 MRI で脳挫傷部位の癒痕化を認めたが、明らかな後遺症や成長発達遅滞なく経過している。</p>
<p>キーワード</p>	<p>抱っこ紐、ロードバイク、転倒、重症頭部外傷</p>

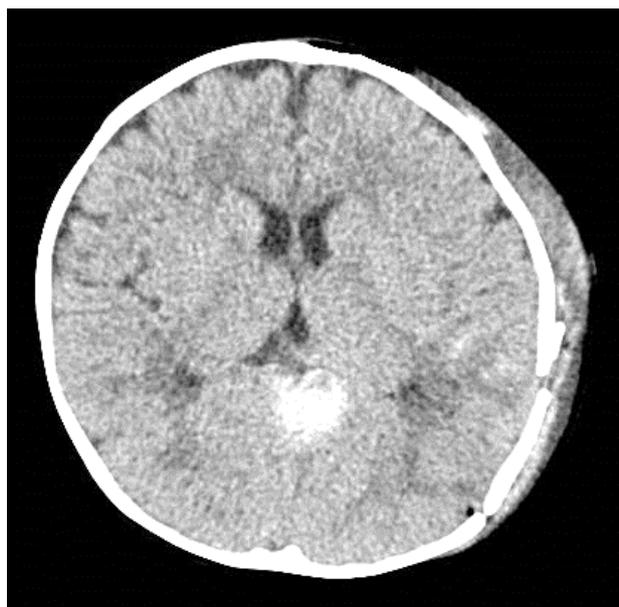
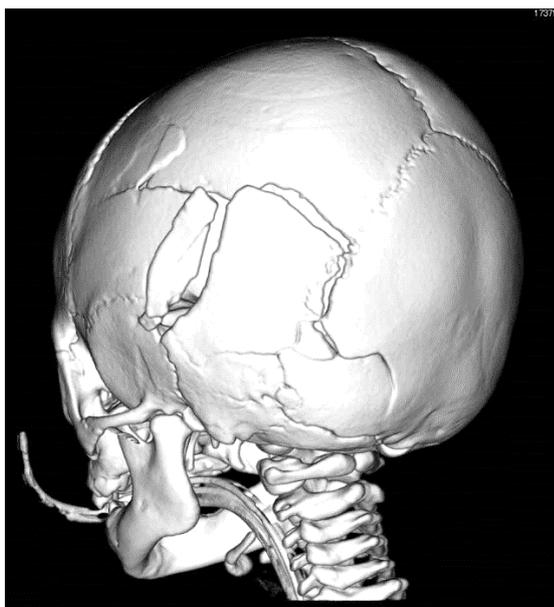


図 1 頭部 CT (入院日)